

安全データシート

作成日:2016 年 8 月 1 日

改定日:2026 年 3 月 1 日

1. 製品及び会社情報

製品名称	:15%ホルマリン
SDS No.	:105
推奨用途	:試験研究用
会社名	:アジア器材株式会社
住所	:東京都町田市森野 1-27-14
電話番号	:042-723-4670
担当部門	:相模原 FB
緊急連絡電話番号	:042-703-9071

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

【健康に対する有害性】

皮膚腐食性／刺激性	:区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	:区分 1
呼吸器感作性	:区分 1
皮膚感作性	:区分 1
生殖細胞変異原性	:区分 2
発がん性	:区分 1A
生殖毒性	:区分 1B
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:区分 2(神経系、呼吸器)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:区分 2(中枢神経系、呼吸器)

【環境有害性】

水生環境有害性 短期(急性)	:区分 3
----------------	-------

※ 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する。

GHS ラベル要素

【絵表示(ピクトグラム)】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

重篤な眼の損傷

吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

神経系、呼吸器の障害のおそれ

長期期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系、呼吸器の障害のおそれ

水生生物に有害

【注意書き】

〔安全対策〕

使用前に取扱説明書を入手すること。

蒸気を吸入しないこと。

蒸気の吸入を避けること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

〔応急措置〕

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察、手当てを受けること。直ちに医師に連絡すること。

気分の悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。特別な処置が必要である。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当てを受けること。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察、手当てを受けること。

呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

〔保管〕

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物・容器を地方及び国の規制に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質 :混合物

混合物の区別

成分名	CAS 番号	含有量	化審法 官報公示番号	安衛法 官報公示番号
ホルムアルデヒド	50-00-0	5.2%	2-482	-
メタノール	67-56-1	1.1%	(2)-201	-

※ 記載値は製品規格値ではありません。

この成分表に記載がない成分は、日本政府による GHS 分類結果一覧に収載されていません。

4. 応急措置

吸入した場合 :空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合:直ちに医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合 :直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
多量の水、適切な薬剤で洗うこと。
特別な処置が必要である。
皮膚刺激が生じた場合:医師の診察、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合 : 医師の診察、手当てを受けること。

眼に入った場合 :水で 15 分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合 :気分が悪いときは医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

【消火剤】

適切な消火剤 :周辺設備に適した消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤 :データなし

【特有の危険有害性】

特有の危険有害性 :加熱すると容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性、有毒、腐食性のガスを発生するおそれがある。

【消火を行う者への勧告】

- 特有の消火方法 : 関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 保護手袋、保護衣、保護眼鏡を着用すること。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置 : 回収が終わるまで十分な換気を行う。
環境に対する注意事項 : 適切な保護具を着用する。
二次災害の防止策 : 河川、下水、土壌など環境への放出を避けること。
: 漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

- 技術的対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。
: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
安全取扱注意事項 : 取扱い後は手をよく洗うこと。
: 蒸気の吸入を避けること。
: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
: 蒸気を吸入しないこと。
: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙しないこと。

【保管】

- 安全な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良い涼しいところで保管すること。
: 施錠して保管すること。
安全な容器包装材料 : 本品の容器のほか、消防法及び国連輸送法規で規定されている容器

8. ばく露防止及び保護措置

【管理指標】

- 管理濃度 : 作業環境評価基準

ホルムアルデヒド	メタノール
≦0.1ppm	≦200ppm

- 許容濃度等 : 日本産業衛生学会

ホルムアルデヒド(2010 年)	メタノール(2010 年)
許容濃度 0.1ppm,	許容濃度 200ppm

- : ACGIH

ホルムアルデヒド(2010 年)	メタノール(2010 年)
TLV-TWA:0.1ppm TLV-STEL:0.3ppm	TLV-TWA:200ppm TLV-STEL:250ppm Skin

【ばく露防止】

設備対策

:作業場所には適切な局所排気装置のある場所で行う。
取扱い場所の近くに洗浄のための設備を設ける。

保護具

:(呼吸用保護具)
状況に応じた適切な呼吸保護具を使用する。
換気が不十分な場合は、呼吸用保護具を着用すること。
(手の保護具)
保護手袋を着用する。
(眼の保護具)
保護眼鏡を着用する。
(皮膚及び身体の保護具)
保護衣を着用すること。

9. 物理的及び科学的性質

物理的状态	:液体
色	:無色透明
臭い	:刺激臭
沸点又は初留点及び沸騰範囲	:データなし
可燃性	:データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	:データなし
引火点	:データなし
自然発火点	:データなし
分解温度	:データなし
pH	:約7
動粘性率	:データなし
溶解度	:(水に対する溶解度)混和する
蒸気圧	:データなし
密度及び／又は相対密度	:データなし
相対ガス密度(空気=1)	:データなし
粒子特性	:適用外

10. 安全性及び反応性

反応性	:データなし
化学的安定性	:通常の保管条件／取扱い条件において安定である。
危険有害性反応可能性	:(ホルムアルデヒド) この気体は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。 アルカリと接触及び水に溶解している場合、重合する。加熱すると有害なヒュームを生じる。

	強酸化剤、強酸及び強塩基と激しく反応する。爆発の危険を生じる。(ICSC 0057)
避けるべき条件	:混触危険物質や火源との接触、高温と直射日光
混触危険物質	:強酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	:一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: (ホルムアルデヒド) LD50=600-800mg/kg (Rat) (メタノール) LD50=1400mg/kg (Human) NITEのGHS分類に基づき、区分に該当しない
急性毒性(経皮)	: (ホルムアルデヒド) LD50=270mg/kg (Rabbit) (メタノール) LD50=15800mg/kg (Rabbit) NITEのGHS分類に基づき、区分に該当しない
急性毒性(吸入:ガス)	: (ホルムアルデヒド) LC50=480mg/kg (Rat)4h NITEのGHS分類に基づき、区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	: (メタノール) LC50=22500mg/kg (Rat) NITEのGHS分類に基づき、区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	: NITEのGHS分類に基づき、区分2に該当
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: NITEのGHS分類に基づき、区分1に該当
呼吸器感作性	: NITEのGHS分類に基づき、区分1に該当
皮膚感作性	: NITEのGHS分類に基づき、区分1に該当
生殖細胞変異原性	: NITEのGHS分類に基づき、区分2に該当
発がん性	: NITEのGHS分類に基づき、区分1Aに該当
生殖毒性	: NITEのGHS分類に基づき、区分1Bに該当
特定標的臓器毒性	
単回ばく露	: NITEのGHS分類に基づき、区分2(神経系、呼吸器)に該当
反復ばく露	: NITEのGHS分類に基づき、区分2(中枢神経系、呼吸器)に該当

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

:(ホルムアルデヒド)

藻類 LD50=4.89mg/L

(メタノール)

魚類 LD50=15400mg/L、甲殻類 LD50=1340mg/L

NITE のGHS分類に基づき、区分 3 に該当

水生環境有害性 長期(慢性)

:(ホルムアルデヒド)

甲殻類 LD50=1mg/L

NITEのGHS分類に基づき、区分に該当しない

残留性・分解性

:利用可能な情報はない

生体蓄積性

:利用可能な情報はない

土壤中の移動性

:利用可能な情報はない

オゾン層への有害性

:利用可能な情報はない

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

:地域、国の規則に従って廃棄すること。

環境への放出を避けること。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に
処理を委託して処分することが望ましい。

酸化法	大量の水を加えて希薄な水溶液(2%以下)にした後、次亜塩素酸塩水溶液を加えて分解した後、廃棄する。又は、水酸化ナトリウム水溶液を加えアルカリ性とし、過酸化水素水で分解した後、大量の水で希釈して処理する。
-----	---

汚染容器及び包装

:内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類

:該当しない

国連番号

:該当しない

容器等級

:該当しない

海洋汚染物質

:該当しない

国内規制

陸上規制情報

:毒物劇物取締法の規定に従う

海上規制情報

:船舶安全法の規定に従う

航空規制情報

:航空法の規定に従う。

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

重量物を上積みしない。

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 特定第一種指定化学物質

毒物及び劇物取締法 : 劇物

労働安全衛生法 : 特定化学物質 第2類物質

名称等を表示すべき危険物及び有害物

名称等を通知すべき危険物及び有害物

作業環境評価測定対象物質

消防法 : 届出を要する消防活動阻害物質

化審法 : 優先評価化学物質

大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質／優先取組

特定物質 政令第 10 条第 1 項から第 28 号

水質汚濁防止法 : 指定物質

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。まだ知られていない危険有害性を有する可能性がありますので、取扱いの際はできるだけ安全確保に努め、ばく露を避けるよう十分にご注意ください。また、注意事項は通常の手扱を対象としたものであって、他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報提供であって保証をなすものではありません。